

2019



調査研究報告会の様子

草津市 総合政策部 草津未来研究所

令和元年度事業報告書



UDCBKで開催しているスクールの様子

目 次

I	草津未来研究所について.....	1
II	事業成果.....	2
1	調査研究活動.....	2
	(1) シンクタンク機能.....	2
	(2) データバンク機能.....	4
2	人材育成活動.....	5
	(1) プラットフォーム機能.....	5
3	情報発信にかかる活動.....	13
4	その他の活動.....	14
III	運営体制.....	16

I 草津未来研究所について

草津未来研究所は2010(平成22)年4月1日に設立し、以下の目的により自治体内の研究所として活動をしている。

【目的】

草津市の未来を見据えた創造力ある政策を提案し、草津市の政策審議機能の充実に寄与する。

【活動】

草津未来研究所の活動は、本市の政策課題に即しながら、課題解決や政策立案等の政策形成に結びつく調査研究活動と、職員の政策形成能力の向上および草津市の未来を担う人材育成を目指す人材育成活動の2本柱で運営している。また、現アクションプランの基本的な考え方により、「シンクタンク機能」と「プラットフォーム機能」の2つの機能に重点を絞った展開を図っている。

調査研究 活動	① シンクタンク機能	・実践的で戦略的な政策提案
	② データバンク機能	・政策情報の収集・分析・蓄積・発信 ・政策情報の指標化・論点整理
	③ コンサルティング機能	・担当課の業務支援(平成30年度から休止)

人材育成 活動	① プラットフォーム機能	・市民(地域)と学生との連携を生み出す場の形成等 ・アーバンデザインセンター ¹ びわこ・くさつ(UDCBK)の事業運営
	② トレーニング機能	・調査研究活動を通じた人材育成(令和元年度から休止)

¹ アーバンデザインセンターは、行政都市計画や市民まちづくりの枠組みを超え、地域に係る各主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的立場から携わる新たな形のまちづくり組織や拠点として、2019(令和元)年12月現在、全国21の拠点で展開している(UDC Initiative HP参照)。また、アーバンデザインセンターびわこ・くさつでは、産学公民が連携しながら、草津の未来のまちのデザインを考える取組を行っている。

Ⅱ 事業成果

1 調査研究活動

(1) シンクタンク機能

① 調査研究

(a) 草津市における公共サービスでの AI 等のデジタル技術の活用に向けた 課題と展開に関する調査研究

我が国では、これまでの情報社会(Society4.0)から、新たな社会(Society5.0)の構築を図っていくため、デジタル社会に関する法整備をはじめ、様々な政策方針、5Gの環境整備など、「社会全体のデジタル化」に向けた取組が加速度的に展開されている。また、自治体においても AI 等の導入が進められているが、総務省が行った2018(平成30)年11月現在の調査結果では、実証実験を含む AI を1業務でも導入している団体は、都道府県で約36%、政令指定都市で約60%であったのに対して、その他の市区町村は約4%であり、非常に低水準であった。

今後、人口減少が進んでいく社会において、高水準のスマートフォン保有率や、学習指導要領改訂による「プログラミング教育」の必修化等により、デジタル化に向けた取組が必須になることが明確になりつつあり、行政サービスにおいてもデジタル技術の活用を意識した取組を進めていかなければならない。しかしながら、AI等の先端技術は「優秀で万能」といったイメージを持たれているが、実のところ、まだまだ成長段階であり、また、IT関連においても、ネットワークセキュリティの問題や人材不足といった課題などが存在している。

そこで、AI等のデジタル技術を効果的に導入していくためには、それぞれの部署が単発的に導入していくのではなく、行政全体で一定の道筋を立てながら、総合的に取組んでいくことが重要である。そして、そのために必要とされることは、職員のデジタル社会との共生意識の定着化や、デジタル化に向けた目指すべき目標や方向性を明確にした上での組織体制の強化、地の利等を活かした産学公の連携、また、利用者ファースト視点での職員のサービスデザイン思考の意識醸成などといった展開や考え方をもちながら進めていくことである。

(b) 統計に基づく草津市の各学区・地区の姿

本市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計結果によると、今後も増加傾向が続き 2035 年にピークを迎える。また、現在策定中の第 6 次総合計画の人口フレームのための推計では 2031 年まで増加するとされている。

しかし、本市の学区・地区の単位で見ると、すでに人口が減少し始めているところがある。本市の面積は、48.65 km²(琵琶湖を除く。)と県内の市町の中で、人口規模に比べ比較的小さな面積の自治体であるが、後にみるように、人口や世帯に関連する統計だけを見ても学区・地区ごとに大きな違いがある。

そこで、本レポートは、2015 年までの国勢調査の結果を基に、本市の人口と世帯の特徴について、国・県・県内市町と比較しながら概観した。次に、2015 年国勢調査に基づく小地域集計のデータを 14 の学区・地区別に集計し、人口・世帯数と人口構造、世帯の状況、住宅の所有関係・住宅の建て方と居住期間、就業状態等、移動人口の 5 項目について分析した。また、市全体の将来推計人口について、国勢調査人口に基づくものと住民基本台帳人口に基づくものを検討するとともに、住民基本台帳人口に基づく学区・地区別の将来推計人口を試算し、10 年後の年齢 3 区分別の人口を示した。

② 都市政策懇話会

中長期の都市づくりに関して広域的かつ横断的な視点から、その目指すべき方向性や具体的な方策について草津未来研究所運営会議委員(学識経験者)の「知」の活用を図り、理事者の政策判断に寄与することを目的とした懇話会を開催した。

【開催内容】

開催日	内容
2019(令和元)年 7月17日	テーマ「SDG s について」 ・ 地方自治体としてのSDG s への関わり方など、学識経験者からの様々な意見を参考に、今後の取組への手掛かりにしていく。

【出席者】

区分	氏名	役職
アドバイザー	松原 豊彦	立命館大学食マネジメント学部教授
	戸所 隆	高崎経済大学名誉教授
	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長
	小沢 道紀	立命館大学食マネジメント学部准教授
市側	橋川 渉	草津市長
	木村 博	総合政策部理事
	川崎 廣明	健康福祉部長
	溝口 智紀	健康福祉部理事
	藤田 雅也	環境経済部長
	松浦 正樹	総合政策部企画調整課長
	本村 廣司	草津市産学公民連携調整員
事務局	林 裕史	総合政策部草津未来研究所参事
	中瀬 明美	総合政策部草津未来研究所(UDCBK)参事
	林沼 敏弘	総合政策部草津未来研究所嘱託職員

(2) データバンク機能

① 地域別人口推計

住民基本台帳人口に基づく、市域全体と学区・地区別の将来推計人口を算出した。

推計の方法：年齢毎の推移率を基本に推計

(1,000 m²以上、50 戸以上の開発を考慮)

基準日：各年 3 月 31 日 地域の単位：14 小学校区

② 政策情報の整理

住民基本台帳に基づく人口と世帯に関するデータの追加・更新を行った。

2 人材育成活動

(1) プラットフォーム機能

① 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの「大学地域連携課題解決支援事業」として、草津市関係では下記の事業が採択された。

連携大学	自治体担当課	活動テーマ
立命館大学 食マネジメント学部	健康福祉部健康増進課	食生活のイノベーションによる地域コミュニティづくり ～少子高齢化・人口減少時代に対応した新たなモデルの基礎調査・提案～
立命館大学 理工学部	教育委員会歴史文化財課	「草津の魅力」を再発見！ ～草津市内に点在する歴史遺産を繋ぐ保存・活用手法の提案～

2019(令和元)年 11 月 30 日に、彦根市福祉センターで開催した「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2019」での運営に携わった。

また、「しが就活塾」の会場となる草津市民交流プラザの会場手配に伴う事務局への事務的支援を行った。

② 包括協定大学等との連携推進

大学等の教育機関の「知」を活かし、相互連携を図りながら地域の活性化を推進するため、草津市と包括協定等を締結している 7 大学 1 高等学校と各種事業を行った。

草津市と大学との包括協定に関する連携協力事業の実績と計画 集計

	平成30年度実績							令和元年度以降計画							前年度比													
	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橘大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高等学校	合計	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橘大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高等学校	合計	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橘大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高等学校	合計	
イベント協力	9	0	0	0	0	0	0	5	14	10	0	0	0	0	1	1	6	18	1	0	0	0	0	1	1	1	1	4
インターンシップ	1	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
共催・後援事業	12	3	0	1	0	0	0	0	16	15	4	1	2	1	1	1	0	25	3	1	1	1	1	1	1	1	0	9
業務委託	5	0	1	1	0	1	0	2	10	4	0	1	1	0	0	0	2	8	-1	0	0	0	0	-1	0	0	-2	
講師依頼	5	3	1	4	1	0	1	3	18	6	1	1	3	0	1	0	2	14	1	-2	0	-1	-1	1	-1	-1	-4	
審議会等委員依頼	49	14	5	7	10	5	12	3	105	52	11	3	8	12	4	15	3	108	3	-3	-2	1	2	-1	3	0	3	
補助事業	2	0	0	0	1	0	0	2	5	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	-1	0	0	-1	-2	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
合計	83	20	7	14	12	6	13	15	170	91	16	6	15	13	8	17	14	180	8	-4	-1	1	1	2	4	-1	10	

③ アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業

(a) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業の運営やプログラム、また法人化の妥当性など、様々な分野の関係者と意見交換を行うことを目的とする懇話会を開催した。

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員】

区分	氏名	所属
座長	松原 豊彦	立命館大学食マネジメント学部教授（草津未来研究所所長）
副座長	北中 建道	草津市副市長
委員	及川 清昭	立命館大学理工学部特命教授・キャンパス計画室長 （アーバンデザインセンターびわこ・くさつセンター長）
	武田 史朗	立命館大学理工学部都市デザイン学科教授・キャンパス計画室 副室長（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ副センター長）
	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長（草津未来研究所顧問）
	田畑 泉	立命館大学BKC地域連携室長（スポーツ健康科学部教授）
	伊庭 健治	草津市まちづくり協議会連合会副会長
	堀江 尚子	市民公募（認定NPO法人くさつ未来プロジェクト代表）
	服部 忠満	パナソニック株式会社アプライアンス社 人事・総務センター総務部総務一課主務
	片岡 一明※	株式会社滋賀銀行草津支店長
	加藤 幹彦	草津商工会議所専務理事
	神部 純一	滋賀大学教育学部教授
	秦 憲志	滋賀県立大学地域共生センター主席調査研究員
	阪本 崇	京都橘大学副学長
	青木 均	草津市コミュニティ事業団常務理事
松浦 昌宏	滋賀県医科大学研究戦略推進室産学連携推進部門長 特任教授	
深尾 昌峰	龍谷大学政策学部教授 龍谷エクステンションセンター・センター長	

※年度途中で委員及び委員役職変更あり

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会の開催】

	開催日	内容
第1回	5月31日	<ul style="list-style-type: none"> 懇話会委員自己紹介 前年度の活動テーマと実績について 今年度の活動テーマと予定について
第2回	10月10日	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施事業および計画について
第3回	2月19日	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度事業実施状況について 令和2年度実施予定事業について

(b) 都市デザイン連携プロジェクト

JR 南草津駅近接エリアで、土地区画整理事業を進めている「南草津プリムタウン」内の1号公園を中心としたまちづくりに関して、社会実験準備事業として「住民参加の新しい公園づくり」を立命館大学と共に取り組んだ。また、同駅西口の東山道記念公園において、まちライブラリーを実施した。UDCBK のオープンスペースでは、立命館大学工学部の「建築都市デザイン演習」として、同駅東口周辺の街並みをデザインした作品展示も行った。

【南草津プリムタウン】

提案大学	概要
立命館大学 学 ²	住民参加の新しい公園づくり～南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会調査・実験

【まちライブラリー】

	開催日	タイトル	参加人数(人)
1 学 ² 民	7月27日	公園で、本を読みあって過ごしませんか？ “まちライブラリー”夕涼み企画	7
2 学 ² 民	10月5日	みんなで一緒に、木で本棚をつくろう まちと人をつなげる本棚 “まちライブラリー”ものづくり企画	26

【立命館大学学生作品の展示】

	開催日	タイトル
1 学 ²	11月12日～22日	立命館大学工学部 「建築都市デザイン演習」作品展示

² 表中の学等は、産学公民の連携先を示している。 産企業など、学大学など、公行政など、民市民など

(c) 都市と交通シナリオスタディプロジェクト

2040年のJR南草津駅周辺の将来像を複数のシナリオとして描き、それらに基づく望ましい都市空間と交通のあり方について議論することで、将来の課題解決のためのアイデアを蓄積、整理していくためのプロジェクトで、令和元年度は、2020(令和2)年度以降に本格的に取り組むための準備作業として、立命館大学・滋賀県・草津市都市計画部・UDCBK事務局による研究会を定期的で開催し、実施方法を検討した。

	開催日	内容
1 学公	7月17日	課題と進め方 シナリオプランニング手法の基礎理解
2 学公	8月21日	将来数十年の視点からみた課題とその集約 トレンドの抽出
3 学公	10月9日	課題整理による将来を決定する主な変数(ドライビングフォース)の抽出 海外の事例紹介
4 学公	12月20日	シナリオとバックヒストリー シナリオスタディ目的と意義・今後の進め方等
5 学公	2月6日	シナリオごとの課題解決策、シナリオにむけた課題 次年度の展開に向けた課題整理
6 学公	3月11日	次年度のプログラムとスケジュール

(d) 大学生が住むまちプロジェクト

令和元年度は、大学での正課・課外活動等で得た学生の知見を市民に還元する取組を、UDCBKを媒介に実施した。

	実施日	内容	主催者
1	11月12日 ～22日	デザイン演習作品展示	立命館大学工学部
2	12月5日	まちづくり最前線中間報告	立命館大学工学部
3	1月7日 ～31日	ガストロミー・スタディ・プロジェクト1(GSP) ポスター発表	立命館大学食マネジメント 学部
4	1月16日	まち調べオープンプレゼンテーション	立命館大学工学部
5	1月18日 ～28日	学生主催のSDGs体験型イベント展示ポスター	立命館大学サステイナブル ウィーク実行委員会

(e) アーバンデザインスクール

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業において、市民と専門家の間をとりもつ専門家、及び地域での専門家育成を目的に「アーバンデザインスクール」を実施した。前期は「アーバンデザイン講座」、後期は「小さな空間から都市をプランニングする」をテーマに各5回シリーズで計画し、各4回実施した。

【前期】

	開催日	内容	参加人数 (人)
第1回 学	6月12日	タイトル：オープンスペースの設計 講演者：遠藤新氏（工学院大学建築学部教授）	37
第2回 学	7月19日	タイトル：地域資産を都市に活かす 講演者：野原卓氏 （横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）	29
第3回 学	8月2日	タイトル：都市と交通の接点をデザインする 講演者：黒瀬武史氏 （九州大学大学院人間環境学研究院准教授）	18
第4回 学	9月27日	タイトル：スモールアーバニズム 講演者：阿部大輔氏（龍谷大学政策学部教授）	15
第5回 学	10月12日	タイトル：アーバンデザインセンター 講演者：前田英寿氏（芝浦工業大学建築学部教授） （※台風接近のため中止）	-

コーディネーター：及川清昭氏 UDCBK センター長（立命館大学理工学部教授）

【後期】

	開催日	内容	参加人数 (人)
第1回 学	11月20日	タイトル：なぜ小さな空間から都市をプランニングするのか 講演者：阿部大輔氏（龍谷大学政策学部教授） 武田重昭氏 （大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）	23
第2回 産公	12月20日	タイトル：民有地をまちに還元する／余地でつむがれる地域の意図 講演者：白石将生氏（昭和株式会社関西技術室上席主任） 南愛氏（生駒市役所都市計画課） 片桐新之介氏 （合同会社 C. SSS コーポレーション代表）	19

第3回 学	1月10日	タイトル：3㎡からはじめるまちづくり (戸田市+京都市伏見区) 講演者：吉田哲氏 (京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授)	21
第4回 学	2月7日	タイトル：永続性を前提としない/建物とその先の時間も引き受ける(神戸市+善光寺門前) 講演者：佐久間康富氏(和歌山大学システム工学部准教授) 穂苅耕介氏(豊橋技術大学特任助教)	11
第5回 学	2月28日	タイトル：小さな空間と大きな都市の関係をとらえる 講演者：阿部大輔氏(龍谷大学政策学部教授) 武田重昭氏(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授)(※新型コロナウイルスの影響のため中止)	—

コーディネーター：武田史朗氏 UDCBK 副センター長 (立命館大学理工学部教授)

(f) アーバンデザインセミナー

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業の4つの機能(学習・交流、調査研究、社会実験、情報発信)のうち、学習・交流機能として実施した。

	開催日	内容	参加人数 (人)
第1回 学	6月29日	テーマ:スウェーデンに学ぶ 豊かなまちの使い方 ～草津をもっと豊かに使ってみよう! 講師:村田明子氏(立命館大学理工学部研究員)	17
第2回 学	7月26日 ※1	テーマ:食生活の未来と持続可能なまちづくり 講師:田中浩子氏(立命館大学食マネジメント学部教授)	20
第3回 学	8月21日	テーマ:食の風景から考えるまちづくり 講師:百武ひろ子氏 (県立広島大学大学院経営管理研究科教授)	20
第4回 学	9月13日	テーマ:SDGsから考える食と農とまちづくり 講師:吉川成美氏 (県立広島大学大学院経営管理研究科准教授)	16
第5回 学公	8月22日	テーマ:草津宿本陣・東海道の「いま」と「これから」～VRの事例を通してまちを考えるワークショップ コーディネーター:松田游也氏 (立命館大学大学院理工学研究科修士1回生)	15
第6回 学民	9月20日	テーマ:草津おみやげラボコラボセミナー 草津いいもの探シツアーを考えよう!～「歩いて巡りたくなる地域のアイデア」をバス+徒歩で実現可能に 講師:藤井健史氏 (立命館大学理工学部建築都市デザイン学科助教) コーディネーター:大塚佐緒里氏(草津おみやげラボ所長)	21

第7回 民学	10月19日	テーマ:「超珍」シビックプライドを育てるガイドのいないまちあるき 講師:山本あつし氏 (事業プロデューサー、大阪芸術大学講師)	5
第8回 民産	11月16日	テーマ:まちカフェを試してみよう!つながる場からまちが動き出す 講師:石崎立矢氏 (上京朝カフェ主催者、京都新聞社南部支社編集部長)	8
第9回 民学	12月7日	テーマ:発起人は大学生!くさつ Farmers' Market に迫る 講師:内田修次氏 (くさつ Farmers' Market、立命館大学スポーツ健康科学部4回生)	4
第10回 産学	2月14日	テーマ:健幸都市とコーディネーション能力 講師:大橋知佳氏 (榊東大阪スタジアム、立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程1回生)	21

(g) UDCBK 社会実験準備事業

大学を活かしたまちづくりの一環として、草津市をフィールドとし、大学との連携による研究成果の草津市への適用可能性や、新たな技術・制度の社会的受容の条件等について市民に還元し今後のまちづくりに活かすため、草津市の政策の柱である「健幸都市」、「コンパクトシティプラスネットワーク」、「草津市版地域再生計画」などのまちづくりに関わる6つのテーマを設定し、市と包括協定を締結している大学(立命館大学、滋賀大学、成安造形大学、京都橘大学、滋賀県立大学、滋賀医科大学、龍谷大学)を対象に募集を行い、下記の概要で実施した。

【UDCBK 社会実験準備事業一覧】

提案大学	概要
立命館大学	住民参加の新しい公園づくり～南草津ブルムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会調査・実験
立命館大学	自転車利用を促す駐輪場や道路などの公共空間のデザイン
立命館大学	南草津駅前ロータリーの混雑状況調査とそれに基づく改善方策の検討
立命館大学	「くさつ歴史健幸散策」のための路面標示デザインの提案～草津の歴史に思いをはせる歩行者ネットワークの形成に向けて～

(h) オープンスペース利用状況

オープンスペースは、JR 南草津駅周辺で必要なパブリックスペースのモデル運用を目的に、個人や団体を問わず、自由に使えるフリースペースとして開放している。

令和元年度は、光泉高校や地域のまちづくり協議会との共催イベントや、草津市国

際交流協会との定例イベントを実施した。個人利用や交流等では、英会話をテーマに、高校生と英語教員、大学生、地域住民との繋がりが生まれるなど、様々な利用がなされている。JR 南草津駅周辺で開催された「みなくさまつり」では、初めてビブリオバトル（午後の部）の会場として提供し、幅広い年齢層の市民が来場された。

また、UDCBK を初めて利用された方や、ビブリオバトル等の限定イベントで利用された方全員を対象にアンケート調査を実施しており、結果内容については、今後の運営等の参考にしていく。

その他、オープンスペースの大型プロジェクターの利用に関しては、草津市議会定例会の中継放映や、草津市青少年美術展覧会の作品放映などの情報発信を行い、利用者に対して様々な分野に関心を持っていただくきっかけづくりを展開した。

【UDCBK 利用者数】

2019(平成 31)年 4 月～2020(令和 2)年 3 月 (3 月 3 日(火)～3 月 24 日(火)休室)	
オープンスペース利用者	9,250 人(昨年度 9,268 人)
イベント参加者	973 人(昨年度 940 人) 1 日平均 45.84 人 (昨年度 42.18 人)

【共催イベント】

	開催日	タイトル	共催者	参加人数(人)
1	5 月 11 日 ⊙	高校生の考える 「地域活性化・地域貢献」	光泉高校	48
2	6月11日～7月4日 ⊙	教科書展示	市	—
3	8月21日～9月4日 ⊙	クイズ玉川@南草津	遺跡と萩の育む玉川 まちづくり推進会議	39
4	1月30日 ⊙	高校生が考える SDG s 成果発表	光泉高校	23
5	2月27日～3月6日 ⊙	人権作品展示	市	—

【やさしい日本語サロン特別セミナー】

	開催日	タイトル	内容	参加人数(人)
1	5 月 17 日 ⊙	多言語カフェ ～インドをもっと知ろう～	インドの食べ物や伝統衣装を通じて、3 人のインド人とやさしい日本語で交流	28
2	6月21日 ⊙	若者たちの地域貢献の輪 ～ローターアクトから世界へ 飛び立とう～	まちの活性化を、社会奉仕・国際奉仕・専門知識開発などローターアクトクラブの活動内容から学ぶ	36

3 情報発信にかかる活動

(1) 未来通信の発行

インターネットや新聞、情報誌等の情報から、政策形成に役立つ情報を整理し、市職員に向けて電子掲示板に掲載した。今年度はNo. 103 から No. 105 まで発行した。

(2) 調査研究報告書の配付

2018(平成 30)年度調査研究の報告書を作成し、以下のとおり配付した。

- ・ 庁内各課及び副部長以上
- ・ 草津市議会議員
- ・ 自治体シンクタンク等 16 箇所
- ・ 包括協定 7 大学 1 高等学校
- ・ 調査研究報告会参加者
- ・ 市立図書館、県立図書館



(3) 調査研究報告会

2018(平成 30)年度に実施した調査研究について、庁内外に向けて報告会を開催した。

開催日	主催	内容
2019(令和元)年 6月13日	草津未来研究所	案 内：市職員、市議会議員、市民 場 所：草津市役所 8 階大会議室 参加人数：21 名

(4) ホームページ

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK) の事業活動や、2018(平成 30)年度調査研究報告書等を市ホームページに掲載した。また、UDCBK 事業については、Facebook などでも随時情報発信を行った。



4 その他の活動

(1) 自治体シンクタンク研究交流会議に参加（出席者：所長・主任研究員）

大阪府豊中市で開催された「第7回自治体シンクタンク研究交流会議（2019(令和元)年11月8日・9日）」に参加し、「SDGsから読み解く」と題して、SDGsに関する基調講演やワークショップ、また、「自治体シンクタンクの存在感や認知度向上に向けた取組みについて」をテーマとしたグループディスカッションが行われ、アドバイザリーボードとして、相談役と顧問も参加した。

次回の自治体シンクタンク研究交流会議は、東京都港区で開催予定。



(第7回自治体シンクタンク研究交流会議 1日目集合写真)

(2) 幸せリーグに参加（出席者：主任研究員）

東京都荒川区が設立した「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(通称：幸せリーグ)」に参加しており(2019(令和元)年6月現在、96自治体が参加)、2017年から2ヵ年にかけて「人口減少・少子高齢化・雇用問題」を研究テーマとする実務者会議第3グループに属しながら調査研究を行い、その報告会となる「幸せリーグ実務者会議成果報告会（2019(令和元)年7月9日）」に参加した。

(3) アーバンデザインセンター会議に参加（出席者：センター長・UDCBK 参事）

埼玉県大宮市・さいたま市美園で開催された、UDCイニシアチブに加入するアーバンデザインセンターが全国から集い情報交換を行う「第7回アーバンデザインセンター会議（2019(令和元)年9月28日）」に参加し、フォーラムの中では、「UDCと公共セクター」をテーマにしたパネルディスカッションにおいて、UDCBKパネラーとして議論に参加した。

(4) 視察の受け入れ

14 団体の視察を受け入れ、大学と連携した自治体内のシンクタンク機能やプラットフォーム機能等について説明を行った。

	受入日	都道府県	視察団体	受入先
1	4月24日	滋賀県	愛荘町まちづくり協働課	UDCBK
2	5月8日	東京都	一般財団法人地域活性化センター	UDCBK
3	7月3日	東京都	国家公務員初任行政研修	UDCBK
4	8月27日	滋賀県	滋賀県企画調整課	UDCBK
5	9月12日	滋賀県	高穂地域包括支援センター	UDCBK
6	9月27日	滋賀県	草津市議初当選議員研修会	UDCBK
7	11月15日	滋賀県	近江八幡市企画調整課	UDCBK
8	11月27日	東京都 栃木県	公益財団法人日本都市センター 宇都宮市 うつのみや市政研究センター	未来研・UDCBK
9	12月14日	大阪府	大阪いずみ市民生活協同組合	UDCBK
10	12月19日	大阪府	豊中市都市経営部とよなか都市創造研究所	未来研・UDCBK
11	1月28日	長野県	岡谷市議会	未来研・UDCBK
12	1月29日	長野県	長野県議会	UDCBK
13	2月20日	岐阜県	本巣市議会	UDCBK

(5) 大学生インターンの受け入れ

立命館大学協定型インターンシップにより、草津市立図書館と男女共同参画課において、8月の5日間、それぞれ研修生1名を受け入れた。

草津市立図書館では、資料の収集や貸出、読書相談などの業務を通じて、公共図書館のサービスと運営についての現状を、また男女共同参画課では、市民団体との会議への参加や市民主催イベントの支援、男女共同参画推進条例施行後の社会情勢の変化の年表作成などの業務を通じて、男女共同参画行政の現状をそれぞれ研修された。

Ⅲ 運営体制

【スタッフ】

職名	氏名	役職
所長	松原 豊彦	立命館大学食マネジメント学部教授
相談役	戸所 隆	高崎経済大学名誉教授
顧問	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長
副所長	小沢 道紀	立命館大学食マネジメント学部准教授
副所長	木村 博	草津市総合政策部理事
調整員	本村 廣司	草津市産学公民連携調整員
主任研究員	林 裕史	草津市総合政策部草津未来研究所参事
UDCBK	中瀬 明美	草津市総合政策部草津未来研究所参事
研究員	橋本 千秋	草津市総合政策部草津未来研究所主査
UDCBK	坂居 雅史	草津市総合政策部草津未来研究所専門員
嘱託職員	林沼 敏弘	草津市総合政策部草津未来研究所
嘱託職員 (UDCBK)	田村 祥代	草津市総合政策部草津未来研究所
臨時職員 (UDCBK)	田中 清子	草津市総合政策部草津未来研究所

(2020年3月末現在)

【運営会議の開催】

	開催日	開催内容
第1回	2019(平成31)年 4月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の体制について ・2018(平成30)年度事業報告・調査研究について ・2019(平成31)年度事業計画・調査研究について
第2回	2019(令和元)年 7月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・UDCBK 運営事業について ・今年度調査研究の進捗状況報告
第3回	2019(令和元)年10月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ・UDCBK 運営事業について ・今年度調査研究の進捗状況報告 ・来年度事業(外部評価、研究所設立10周年)について
第4回	2020(令和2)年 2月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・UDCBK 運営事業について ・今年度調査研究の進捗状況報告 ・2020(令和2)年度予算内示状況について ・来年度調査研究テーマについて ・内部評価報告書(素案)について ・外部評価委員(案)について

草津市総合政策部草津未来研究所

令和元年度事業報告書

2020年3月 発行

草津市 草津未来研究所

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-561-6009 FAX 077-561-2489

E-Mail kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）

〒525-0059 滋賀県草津市野路1丁目13番36号 西友南草津店1階

TEL 077-562-3932 FAX 077-562-9323